

(様式3-2) 研修活動記録票(研修活動に要する経費)

NO.1

嬉野市議会議員

森田明彦

研修月日	令和元年年11月20日		
研修時間	13時15分～15時15分		
研修先	グランメッセ熊本		
所在地	熊本県上益城郡益城町福富1010		
研修の目的	九州地方整備局の災害対応について		
担当者(講師)	国土交通省九州地方整備局 総括防災調整官 川野晃氏		
内容・結果等	【講義】九州地方整備局の防災対応(TEC-FORCEによる技術支援等)		
	気象・水象・被災状況等をリアルタイムで把握(防災対策室)		
	河川や道路、火山等に九州で約3000基設置のCCTV映像をリアルタイムで監視・把握。また、防災ヘリで被災状況を調査し、リアルタイムで情報を提供。		
	リエゾンの派遣 、被災自治体と整備局の連絡窓口として、整備局職員を直接自治体へ派遣(災害対策用機械、機器等)の派遣も同時に行う。 官民の総力を結集 、地域の建設業が地域を守る。		
	通信手段の確保、映像の配信(ドローンの映像をSNSで公開など)派遣隊による、被災建築物応急危険度判定も行う。 船舶航行の安全確保 応援船とともに漁業者とも連携して海を漂流する流木を回収。 防災情報ツールの紹介 「川の防災情報」「川の水位情報」「ハザードマップポータルサイト」～身の回りの災害リスクを知る		
	【まとめと感想】研修冒頭に、国交省による南海トラフの話から始まり、大分県で死者数17,000人、宮崎県にあつては42,000人、鹿児島県で1,200人の死者被害想定を示され、ショックであったが、佐賀県下でも、「佐賀平野北縁断層帯」が分布しており、M9クラスの南海トラフ巨大地震の影響で、断層にずれが生じないか心配である。国の災害対策にも頼るべき点は頼るが、やはり、自分の市町で想定される災害に、不断の備え、意識付けが重要であり、今後も我が市へ提言していく。		
	経費の内容	支払先	金額(円)
	交通費	県庁前グリーンホテル	10,160
	宿泊費		8,650
	合計		18,810

上記活動に要した経費

(様式3-2) 研修活動記録票(研修活動に要する経費)

NO.2

嬉野市議会議員

森田明彦

研修月日	令和元年年11月21日		
研修時間	10時00分～12時30分		
研修先	グランメッセ熊本		
所在地	熊本県上益城郡益城町福富1010		
研修の目的	創造的復興に寄与する熊本大学、熊本保健科学大学防災・減災技術セミナー		
担当者(講師)	熊本大学 准教授 星野裕司氏 熊本保健科学大学 理事長 崎元達郎氏 准教授 藤見俊夫氏		
内容・結果等	①街づくりに貢献する防災・減災のデザイン 熊本大学 准教授 星野裕司氏		
	水辺のデザイン(景観)、居心地もよく、災害も防ぐデザインが求められる。		
	(景という都市空間のとらえ方)利用者目線で考えるデザイン、都市河川→高低差をどうデザイン		
	UDの場合、スロープは高さの20倍の長さが必要。地域の履歴を残すデザイン、防災と景観のどつ		
	ちを優先するか、現場の判断で残すことも必要。水の増減で変化が判る事、自然の移ろいを感じて		
	いないと災害に対応できない。		
	②地域の大学が連携した減災型地域社旗会リーダー養成の取り組み		
	・熊本保健科学大学 理事長 崎元達郎氏 准教授 藤見俊夫氏		
	企業の取り組み、「リケン」メーカーを超えて復旧支援を行った、オールジャパンでの支援。		
	「ルネサス」工場は壊れやすく作る→直しやすい。製品を複数の工場で生産する事でリスクが減る。		
「アイシン九州」外国では出来ない日本の(ものづくり)の精神、指揮命令系統の一元化。			
トップの責任、復活宣言を明確にする(行う) 労使関係が強固なところは強い。			
【まとめと感想】この講義では、前段に空間デザインをする際に防災・減災を考えたデザインで、自然を感じながら、その変化で自然の怖さを理解すること、後段では企業の対応や、学びの中で防災力を高めること、また、災害に強いまちを政策で打ち出すことで企業誘致に繋げることも有効だ。			
上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
	NO 1に同じ		
	合計		0